

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

2009年1月～2026年4月の間に、二次性 CNS 浸潤を認める悪性リンパ腫と診断された方

【研究課題名】

二次性 CNS 浸潤を認める悪性リンパ腫の治療成績

【研究の目的・背景】

《目的》

当院における二次性 CNS 病変を有する悪性リンパ腫症例について、後方視的に解析を行い、どの治療が有効であるかについて検討いたします。

《研究に至る背景》

悪性リンパ腫の組織亜型として、びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫が最も多く、その次に濾胞性リンパ腫が多いです。“びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の初回治療としては、R-CHOP 療法、Pola-R-CHP 療法などが行われ、約 60%の確率で根治が得られると言われています。しかしながら、これらの R-CHOP 療法、Pola-R-CHP 療法はいずれも、Blood Brain Barrier を越えないと言われており、中枢神経(CNS)病変には効果が得られないことから、初発時に、CNS 病変を合併している場合や再発時に CNS 病変を認める際の予後は極めて悪いと言われています。CAR-T 細胞療法は CNS 病変に対する有効性が示されているものの、報告例も少なく、二次性 CNS 病変を有する悪性リンパ腫の治療については確立されたものはありません。そのため、当院における二次性 CNS 病変を有する悪性リンパ腫症例について、後方視的に解析を行い、どの治療が有効であるかについて検討することといたします。

【研究期間】

2025年5月26日 ～ 2030年3月31日

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院において研究成果発表後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

全生存期間、無増悪生存期間、再発率、年齢、性別、LDH 値、PS、病期、病理診断、移植前処置、EB ウィルス感染の有無

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：血液内科 ・ 山本豪

研究機関の長：院長 門脇 孝

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年12月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 血液内科 ・ 梶大介

電話 03-3588-1111(代表)